

震災復興の継承

阪神・淡路大震災から30年

能登半島地震等の震災復興に経験は生かされているか

阪神・淡路大震災から2025年1月で30年を迎えました。この間、東日本大震災や熊本地震、そして2024年に発災した能登半島地震など日本は数多くの地震災害に見舞われました。震災から復興する過程において得た教訓は検証され、転化しながら継承されることが求められます。南海トラフ沖地震が目前に迫る中、阪神・淡路大震災以降の復興を俯瞰し、震災復興の教訓の変遷を辿るとともに、未来へ継承するための在り方を考えるシンポジウムを開催します。

2025

3.22 Sat

13:30-16:30 (開場13:00)

会場

兵庫県中央労働センター大ホール
(神戸市中央区下山手通6丁目3番28号)

定員

会場参加：150名
Zoom参加：500名 ※いずれも先着順

参加費

都市計画学会会員(含賛助会員)、学生：無料
一般(非会員)：1,000円

申込

Peatixにより申し込み
<https://kansaikikaku202503.peatix.com>



プログラム

13:30-13:40	開会挨拶
13:40-14:05	基調講演 「阪神・淡路大震災からの復興から得た教訓」 (神戸大学名誉教授 室崎 益輝 氏)
14:05-14:30	話題提供 「東日本大震災等の現場では教訓がどう引き継がれたのか」 (東北大学教授 姥浦 道生 氏)
14:30-14:40	休憩
14:40-16:20	パネルディスカッション 室崎 益輝 氏 (神戸大学名誉教授) 姥浦 道生 氏 (東北大学教授) 近藤 民代 氏 (神戸大学教授) 澤田 雅浩 氏 (兵庫県立大学准教授) 野崎 隆一 氏 (神戸まちづくり研究所) 畑 文隆 氏 (元西宮市役所職員)
16:20-16:30	閉会挨拶